

集合フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの発生予察

[要約] 集合フェロモン製剤を利用した簡易トラップは、チャバネアオカメムシの発生予察資材に利用できる。トラップの種類は黄色のコガネコールトラップが適している。

長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
---------------	----	------	----	-----	----	----

平成10, 11年度 長崎県果樹試験場業務報告, 九州病害虫研究会報 第45巻

[背景・ねらい]

チャバネアオカメムシは数年おきに大発生を繰り返している果樹の重要害虫である。本種の発生予察は、現在ライトトラップによって行われているが、電源が必要なために設置場所が限定され、また、設置費用が高価なことから多数を設置することは難しい。

チャバネアオカメムシの合成集合フェロモンは最近、製剤化され、入手可能となった。そこで、集合フェロモン製剤を用いた簡易トラップが、チャバネアオカメムシの発生予察資材として利用できるか否かを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

集合フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺消長は年間を通してライトトラップとほぼ一致することから、発生予察資材として利用できる(図1, 図2)。

温州ミカン果実の被害増加時期にはライトトラップによる誘殺量が増加する。集合フェロモントラップの誘殺消長と果樹園への飛来時期との関係は明らかでない(図1)。

集合フェロモントラップの種類はサンケイ化学社製のコガネコールトラップの黄色が適している(表1)。

[成果の活用面・留意点]

本資材の使用により地域ごとの果樹カメムシ類の発生予察が簡便にできる。

カメムシ類の誘殺量および消長はトラップ設置場所の周辺環境に影響されやすいので、園や地域ごとに異なる。

フェロモントラップは風通しがよい場所に設置し、調査目的(果樹園への飛来状況、ヒノキでの発生消長、越冬場所での発生状況など)に応じて、設置場所を決定する。

[具体的データ]

表1 集合フェロモントラップに誘殺される果樹カメムシ類の種類別虫数（大村市）

調査期間	トラップの種類	チャバネカメムシ			ツヤカメムシ			クサキカメムシ マルホシハナバエ			
		雌	雄	合計	雌	雄	合計	雌	雄	合計	(天敵)
集合フェロモン											
1998年	コガネノルトラップ	725	518	1243	568	660	1228	18	16	34	244
4月13日	青色水盤トラップ	355	208	563	205	227	432	13	13	26	32
11月30日	ライトトラップ	596	394	990	1114	1325	2439	8	7	15	3
集合フェロモン											
1999年	コガネノルトラップ	714	594	1308	215	271	486	5	9	14	334
3月1日	青色水盤トラップ	446	383	829	203	225	428	5	3	8	257
11月30日	ライトトラップ	247	171	418	84	107	191	2	0	2	0

[その他]

研究課題名：集合フェロモンによる果樹カメムシ類の発生予察方法の改善

予算区分：国庫（特殊調査）

研究期間：平成11年度（平成10年～12年）

研究担当者：中村吉秀，太田孝彦（果樹試験場）